

平成 27 年 4 月 日

各 部 局 長 殿

高度教養教育・学生支援機構長

花輪 公雄（公印省略）

高度教養教育開発推進事業（高度教養教育）の募集について（通知）

高度教養教育・学生支援機構では、平成 26 年度から、文部科学省より国立大学改革強化推進経費の補助を受け、グローバル時代における人材像を高度教養教育システムの総合的研究と開発、実践的英語能力を高める体系的英語教育プログラムの開発、現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進などに取り組んでいます。

このたび、本機構では、東北大学の教育の向上を目指すとともに、他大学にもその成果を提供するために、高度教養教育科目の開発事業の募集を行いますので、お知らせします。

つきましては、貴部局において本事業への申請を希望する場合は、別添募集要領に基づき、本事業の趣旨を十分に踏まえ、申請書を作成し、各部局長から高度教養教育・学生支援機構長宛てに申請されるようお願いいたします。

募集要領

1. 事業の背景

里見ビジョンにおいて、「現代的課題に挑戦する先端的で創造的な高度教養教育の確立・展開」が重視されており、本機構では、東北大学の各部局をはじめとし、全国的な学会・機関と協力・連携し、6つのコンピテンシー（① 専門力、② 鳥瞰力、③ コミュニケーション力、④ 問題発見・解決力、⑤ 異文化・国際理解力、⑥ リーダーシップ力）を涵養するカリキュラムや教育方法の開発を構想しています。

これらの能力を形成するためには、**建設的協働学習**（学習者が小グループを編成し、相互に学び・教えあう学習方法）、**問題解決型学習**（教師による教示・演示を中心にするのではなく、与えられた課題について学習者が取組み、解決することで様々な能力を身に着ける学習方法）、**探求型学習**（テーマそのものを学習者が設定し、様々な知識・技能を活用して解決する学習方法）など、学生が主体的能動的に学習する方法の開発が求められています。国際的にも、大学教育は研究と教育の結び付けを強め、知識中心主義から学習者中心主義へ転換しつつあります。

また、内容的にも、留学生と日本人学生とが共に学ぶ**国際共修科目**、専門分野全体を統合する視点を身に着ける**分野総合科目**、社会科学と自然科学双方のアプローチからの複眼的思考を培う**学際・融合科目**、科学的知見だけでは解決できない複雑な問題解決に取り組む**トランス・サイエンス科目**など、教養・専門の区分を超えた**高度教養教育**の開発が不可欠です。

2. 事業の目的

学士課程教育および大学院教育における高度教養教育を開発し、東北大学の教育を充実させるとともに、全国の大学にモデルとなる教育実践を提供することを目的とします。

3. 高度教養教育の内容

専門分野を超えた鳥瞰力、問題発見・解決力、異文化・国際理解力、コミュニケーション力、リーダーシップ、組織力を育成する目的を持ち、グローバル時代に専門性を備えた市民を育成するのにふさわしい内容および方法的に建設的協働学習、問題解決型学習、課題探求型学習など学生の主体的能動的学習を取り入れたもの。

4. 事業の対象となる科目

(1) 大学での学びの転換を促進する初年次教育（カテゴリー1）

現在開講されている授業科目若しくは今後実施予定科目において、上記2に該当し、調査研究、教材の開発、資料収集等事前準備を行い、授業の開発改善と充実を目的とするもの。内容例として、

- ・高校と大学を接続する4技能をバランスよく発展させる英語教育プログラム
- ・高校における非英語外国語学習の導入プログラム

- ・国際共修で留学生が主体的に創造する世界史科目、留学生と日本人学生がともに学ぶPBL型実習など

(2) 学士課程における高度教養教育（カテゴリー2）

今後実施予定科目において、上記2に該当し、調査研究、教材の開発、資料収集等事前準備を行い、授業の開発改善と充実を目的とするもの。

全学教育科目に限定せず、当該部局の専門教育科目において開講するものであってかまわない（他学部の学生も聴講できる位置づけが望ましい）。内容例として、

- ・国際問題などを取り上げ、留学生と日本人学生とが共に学ぶ国際共修科目
- ・地域問題を政治学・経済学・地理学など分野を超えた教員で実施する総合科目
- ・グローバリゼーションの政治・経済・文化・労働など多面的に考察する科目
- ・宇宙の創生から生物の誕生と進化、人類の出現を包括するビッグ・ヒストリー
- ・専門的英語力を育成する特色ある英語教育プログラムなど

(3) 大学院における高度教養教育（カテゴリー3）

今後実施予定科目において、上記2に該当し、調査研究、教材の開発、資料収集等事前準備を行い、授業の開発改善と充実を目的とするもの。内容例として、

- ・専門分野全体を統合する視点を身に着ける分野総合科目
- ・社会科学と自然科学双方のアプローチからの複眼的思考を培う学際・融合科目
- ・科学的知見だけでは解決できない複雑な問題解決に取り組むトランス・サイエンス科目
- ・企業・コミュニティなどと連携して問題解決に取り組み、キイ・コンピテンシーを培う科目
- ・高度教養教育に関連し他学部と大学院をつなぐブリッジ・プログラムなど

5. 事業の対象となる経費

調査旅費、講師等旅費、謝金、教材・機器購入費、教科書編集・執筆費、その他教材開発費

【使用できない主な経費】

本事業は補助金を財源としているため、使用できない経費として、例えば以下のようなものが挙げられます。この他にも、事業内容により本補助金による支出の必要性を勘案した結果、使用できない場合があります。

- (i) 建物等施設の建設、不動産取得に関する経費、大学として通常備えるべき什器類等の物品費
- (ii) 航空保険やレンタカー保険といった、任意で加入する保険等、各個人が負担すべき経費
- (iii) 学生への奨学金等の学生に対する研究奨励金や学資金の援助のための経費
- (iv) その他、本補助事業遂行のために補助金を支出する必要のないと考えられる、例えば以下の経費

- ・懇親会経費や酒・たばこ等嗜好品に係る経費
- ・交付内定日前の契約行為に基づく支出
- ・手土産などの経費
- ・当該年度中に使用していない消耗品等の経費
- ・当該年度中に納品・役務提供されなかった物品費等の経費
- ・本補助事業以外の事業に使用する物品費等の経費

6. 研究組織

申請にあたっては、複数の部局の教員、高度教養教育・学生支援機構の関連分野の教員、他大学の教員や学会を含むことが望ましい。なお、説明会を4月20日（月）16時30分～17時30分、川内北キャンパス合同研究棟101において開催する。

※資料の準備があるので、希望者は4月20日12時までに、教育・学生支援部教務課教育企画係まで申し込むこと（kyom-k@bureau.tohoku.ac.jp）。

7. 申請方法

指定した書式に必要事項を記入して学内便あるいはメールで提出すること

※東北大学高度教養教育・学生支援機構 HP（<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?p=9917>）からダウンロードできます。

8. 課題の採択および実施について

(1) 審査および年度報告書の審査は、学務審議会に設ける高度教養教育開発検討ワーキング・グループにおいて行う。

(2) 応募された課題についてヒアリングを含めた審査を行い、可否を決定する。申請内容に対して要望を加えることがある。

全体で10件程度、1件あたり年間100～300万円で3年間（平成27～29年度）の開発・実施費を提供する

(3) 申請額は当初記載を求めるが、毎年度の進行状況によって増減する。

(4) 予算は年度内に執行の上、具体的な成果等について毎年度報告書を提出すること。

(5) 2年目（平成28年度）には、試行的な授業を行い、3年目以降は、持続的に開講すること。また、その成果と意義によっては支援期間を延長することもある。

(6) 汎用性のある教科書、授業ハンドブック、教材開発が求められる。

9. 日程

申請書締め切り：平成27年5月11日（月）

ヒアリング：平成27年5月25日（月）以降

審査結果：平成27年6月中旬頃

10. 提出先・連絡先

〒980-8576 仙台市青葉区川内 41

教育・学生支援部教務課全学教育企画係

E-mail : kyom-k@bureau.tohoku.ac.jp

Tel : 022-795-7578 Fax : 022-795-7555

以上